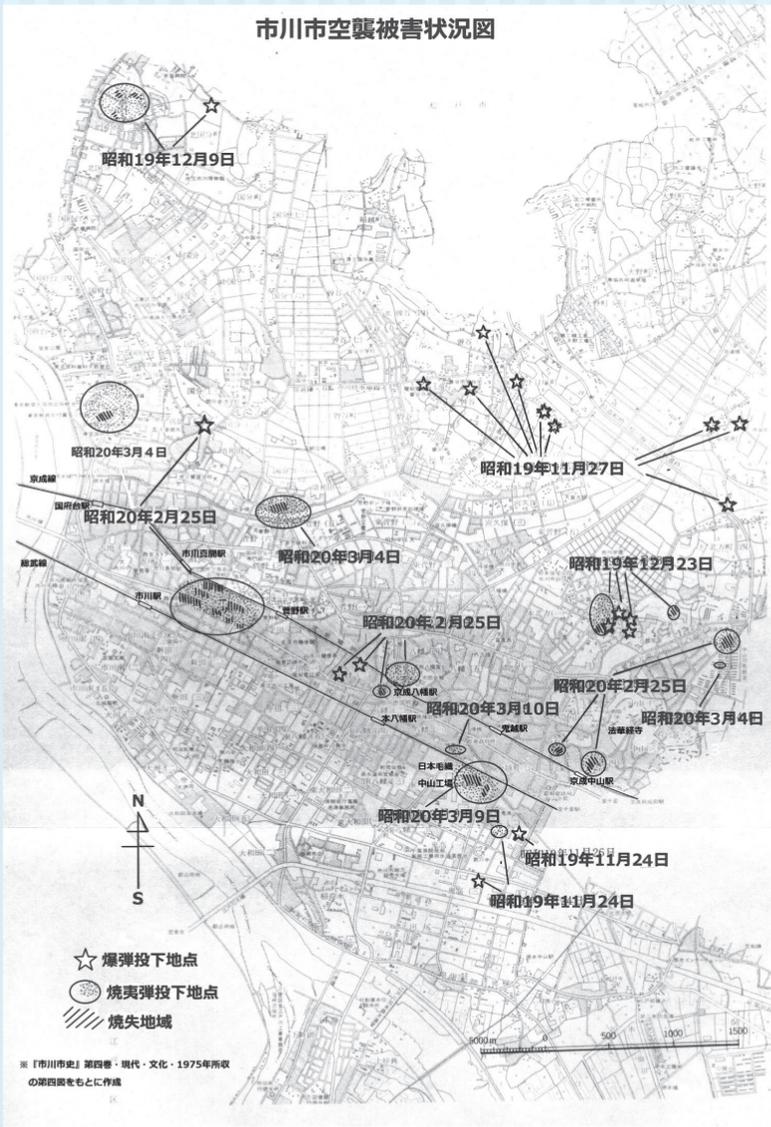


本市も空襲による被害を受けました



▲「市川市史」第四巻(昭和50年)の第一章第4図をもとに歴史博物館が作成

市内の空襲での被害状況

市川市域では、左の空襲被害状況図にあるように、アメリカ軍の東京方面への本格的空襲がはじまった1944(昭和19)年11月24日から、東京大空襲が行われた1945(昭和20)年3月10日までの間に、多くの空襲被害を受けています。

その理由は、東京方面の空襲を終えたアメリカ軍のB29爆撃機などが、市域の上空を通過した際に落とし残しの焼夷弾や爆弾を投下したからで、各所で被害が生じ死傷者も出ました。特に建物の被害が大きかった日が1945(昭和20)年2月25日で、市川新田周辺や中山法華経寺門前などが被害を受け、70軒ほどの家屋が全焼・全壊しています。

なお、空襲時に市外であった大柏村・行徳町・南行徳町については資料が不十分であることからこの図には掲載していません。

戦時下の写真募集

市内の戦時下の写真を募集しています。写真は市がデータ化して保存し、市公式Webサイトへの掲載や、印刷イベントなどで展示します。

募集内容 昭和16年から20年ごろに市内で撮影された写真(サイズ不問)で、戦争時の生活、被害状況、特有の物品など戦争時の様子がうかがえるもの。募集する対象は写真現物のみ(ネガなどは対象外)。写真現物はデータ化したのち返却します。寄贈は受けられませんのでご注意ください。受け渡し方法は相談のうえ決定します。

☎712-8643総務課

被爆体験者からのメッセージ



市川被爆者の会
会長 児玉三智子さん

7歳のときに、広島国民学校の木造校舎の教室で被爆

平和の折り鶴を送りました

令和2年度は15万羽の折り鶴がよせられ、7月21日に広島と長崎にそれぞれ7万5000羽ずつ送らせていただきました。



▲長崎市

明るい未来を信じて

「あの日」から75年の節目の年を迎えました。突然襲った一発の原爆は一瞬に街を破壊し、多くの人を殺戮しました。人類が初めて体験した戦争によるこの世の地獄でした。

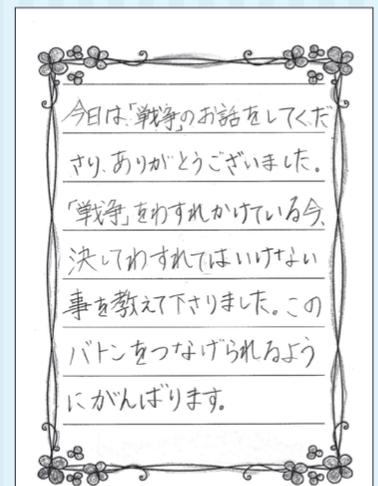
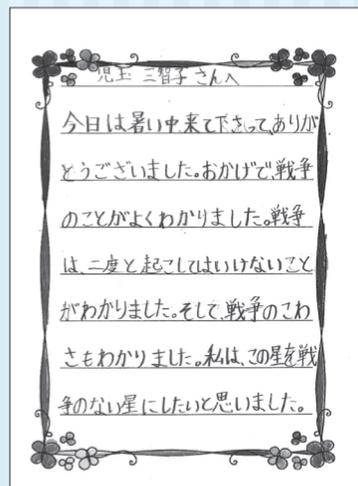
生き残った被爆者も、放射線による後遺症で、今も苦しみつづけています。

核兵器の残忍で悲惨な原爆被害の実相を明日への平和を願い国内外で語り伝えています。

子どもたちに向き合う貴重な授業で、戦争・原爆被害の史実を語り伝える私の言葉に真剣に耳を傾け、時には涙をうかべ、感想には、「自分にできることを考えて行動していきたい」「このバトンを受けつぎます」など、前向きな決意が伝わってきます。戦争も核兵器もない青い地球を子どもたちに。

講話を聞いた子どもたちからこんな声が届いています

南行徳小学校



平成27年度に終戦70周年事業として児玉さんが自らの体験を通して平和の尊さを伝えるために話した被爆体験講話を市公式YouTubeチャンネルでも配信しています。

